

## 令和5年度 金沢医科大学医学部入学者選抜試験問題

### 一般選抜（前期）【小論文】1日目

(2枚のうちの1)

答えは解答用紙に記入しなさい。

以下の問題文を読み、設間に答えなさい。

重大な交通事故が報じられると加害者を非難する言説が沸き起こる。警察庁では2005年2月に、運転免許を所持している全国の満16歳以上の男女を対象に意識調査を行ったところ、交通事故の対策として最も多く挙げられた項目は「悪質違反者の検挙」であった。多くの人は「悪質な運転者が事故を起こす」と認識している一方で、その裏面には「自分はそのような悪質な運転者には該当しない」という暗黙の前提があるのではないか。

しかしそれは誤った認識である。常識から推定されるとおり、事故歴・違反歴の多い運転者は事故を起こす確率が高いとの調査報告は数多くある。しかし逆に、事故歴・違反歴がなければ重大事故を起こさない保証は全くない。重大な交通事故のうち一般に「悪質」と認識される飲酒・薬物・過度の速度超過・あおり運転などにより発生する割合はごく一部である。死亡事故を起こした運転手のうち三割弱は事故歴・違反歴のない者であり、決して低い確率とはいえない。

図5-2は1994年・2005年・2015年とおおむね10年おきに、都道府県別の年間自動車走行距離と交通事故死者数の相関を示す。いずれの年でも自動車走行量と交通事故死者はほぼ比例関係にある。すなわち自動車が走行すればするだけ人命が失われる所以である。「〇〇県は運転マナーが悪い」等の通説があり都道府県別の調査もあるが、そのような認識はいわば都市伝説の類である。「国民皆免許」と言われるほど誰もが運転している。ドライバーの注意力と操作のみに依存した現状の自動車では、誰でも一瞬の不注意あるいは偶然により重大事故の加害者になる可能性がある。交通事故はマナーや心がけの問題ではなく確率の問題として捉えるべきである。図で経年的に直線の傾きが緩やかになっているのは、全国的な交通事故対策によりあるていどの効果が發揮されていることを示す。しかし交通事故の支配的な要因は自動車の走行距離であり、交通事故の被害を減らすには走行距離を減らすしかない。

スウェーデンでは1997年に、交通事故による死者・重傷者をゼロにする目標を掲げた「ビジョン・ゼロ」を国会で決議した。運転者・歩行者の個人的要因（ヒューマンエラー）に責任を求めるだけでなく、道路の設計者・管理者・運転者を雇用する事業者にも責任があることを明記している。これは宇沢著書<sup>\*</sup>でもすでに「またこのような〔注・自動車一台がやっと通れるような狭い街路〕道路で自動車に轢かれて、死んだり、怪我をしたときに、加害者だけの責任ですむのであろうか。道路を管理すべき地方自治体なりが、このような欠陥道路で自動車の通行を認めているということの責任をとるべきではなかろうか」と指摘されている。

重大交通事故をシステム的なアプローチにより分析すると、純粹にヒューマンエラーに基づく事故は全体の7%に過ぎない。また前述の「ビジョン・ゼロ」は、人の生命・健康を犠牲にして成り立つようなシステムは容認できないという倫理的背景に基づくものである。この論点を提起すると、日本では「加害者の責任を免責するのか」という的外れの反論に直面することが多い。しかしその考え方では「交通事故で一定数の死者・重傷者が発生するのは社会的にやむをえない」という前提を認めるのと同じである。個人の責任のみに注目すれば、残り93%の事故はいつまでも防止できない。

日本では1970年に建設省（当時）が交通事故対策として道路構造令を改訂し、国道・県道は市街地の内外を問わず原則として歩道の設置を義務づけるとした。しかし現在でも一般国道（自動車専用道を除く）でも約四割、一般都道府県道では約六割に歩道がない。このように道路構造の面でも明瞭に構造的な欠陥がみられる。（後略）

2021年6月に、千葉県八街市でトラックが小学生の列に突っ込み、児童5人が死傷する事故があった。直接の原因是運転手の飲酒とされるが、2016年にも同じ小学校で同じパターンの事故があり児童4人が重軽傷を負っている。バブル期の無秩序な小規模宅地開発のしわ寄せとして通学路の整備が十分に行われない背景が指摘されている。2016年の事故後に現場付近にガードレールが設置されたが20mのみでその他の場所には設置されなかつた。この事故の被害児が精神的ショックから外出できなくなり、小学校卒業まで保護者が車で送迎したという。自動車の危険性を避けるために自動車を使わざるをえない悲惨な車社会が今も続いている。

宇沢著書<sup>\*</sup>：宇沢弘文『自動車の社会的費用』（岩波書店、1974年）

出典：上岡直見『自動車の社会的費用・再考』（一部省略、著者による脚注を省略、ルビを追記、数値等の表記は算用数字へ改変）

# 令和5年度金沢医科大学医学部入学者選抜試験問題

## 一般選抜（前期）【小論文】1日目

(2枚のうちの2)

答えは解答用紙に記入しなさい。

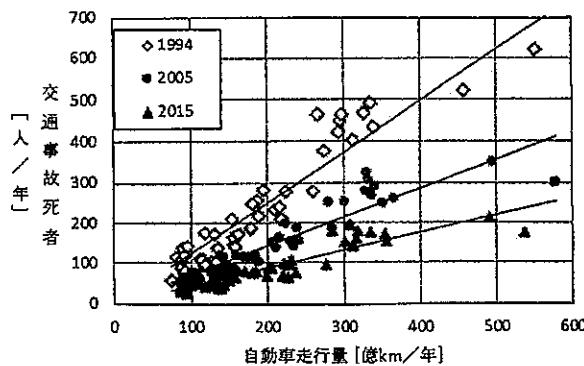


図5-2 都道府県別の自動車走行量と交通事故死者数

設問1. 問題文を200字以内で要約しなさい。

設問2. 図5-3は日本の人口集中地区 (Densely Inhabited District: DID)について、その人口密度と人口10万人あたり交通事故死者数の関係を示したものである。この図の結果とこのような結果となつた原因として考えられることについて問題文を参考に200字以内で説明しなさい。

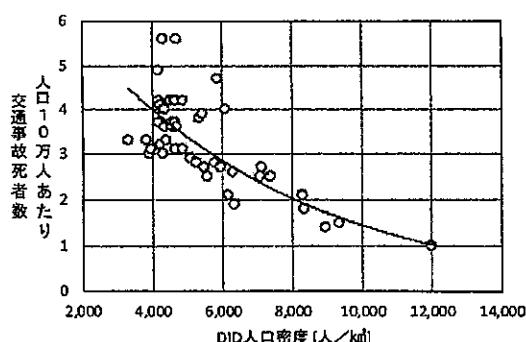


図5-3 D I D人口密度と人口当たり交通事故死者数の関係

---

[下書き用スペース]